

Profile

こども学専攻教授。1980年筑波大学卒（数学専攻）。県立沼田高等学校教諭（初任校）、沼田女子高等学校教諭、前橋高等学校教諭。1998年群馬県教育委員会事務局指導主事（数学）。2005年前橋女子高等学校教頭。2007年教育委員会事務局課長補佐。2010年沼田女子高等学校長、太田高等学校長、高崎高等学校長を経て、2017年4月より現職。2019年学校法人平方学園法人事務局総務課長。2006年図説 学力向上につながる数学の題材（共著）東京法令出版。2009年高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編 作成協力、2015年文部科学大臣表彰。2017、2018年筑波大学非常勤講師。大学でアーチェリーを始め、県内高校アーチェリーの発展に寄与した。



学生へメッセージ

数学に対して、数学は暗記科目、数学は公式に当てはめて解くものなどのメッセージを持っている人がいると思います。公式に当てはめて解くのが数学なら自分も数学をつまらない教科だと思ってしまうでしょう。たとえば、二次方程式を学習すると解の公式を学びます。この公式は、昔、二次方程式を解くということが賭け事だったころ、どんな問題でも解く方法はないか、ということから生まれています。賭けで賞金を得るための手段だったのです。皆さんが知っているピタゴラスの定理は門外不出だったようですよ。

また、江戸時代では庶民が数学を楽しんでいたようです。そう、算額です。鉛筆とかない時代にどうやって作図してたのか、興味を持ちませんか。

授業では、折り紙の幾何、曲線で折る、自然界に見られる数などをとおして楽しむ数学を中心に、各専攻で必要となる数学的な内容を、一緒に楽しく学んでいきたいと思っています。時には協働して課題解決をする場面もあり、すべての授業が終わると、受講者の中に連帯感が生まれると思います。授業を通して算数・数学での達成感を味わいませんか。